

マルチスクリーン対応ディスプレイ導入事例

アンダーデザイン株式会社様

創業70周年を機に、事業形態や業務内容を改革。

大阪と東京のオフィスを常時接続し、社内のコミュニケーションを活性化。



アンダーデザイン株式会社
代表取締役社長
川口 竜広 氏



大阪オフィス



東京オフィス



アンダーデザイン株式会社

所在地：大阪府東大阪市長田3-5-11
事業概要：ITインフラの構築やAWS導入など、各種ICTソリューションやネットワークの設計から構築、運用、保守に加え、ワークスペース全体のデザインや設計・施工も行っています。

U R L : <https://underdesign.co.jp/>

導入の映像デバイス

- 55型大画面液晶ディスプレイ LCD-UN552VS × 8台
(4面マルチスクリーン × 2セット)
- 65型大画面液晶ディスプレイ LCD-E657Q × 2台



LCD-UN552VS×4面マルチスクリーンの大画面で隣の部屋にいるような感覚で会話ができる。



大阪オフィスのミーティングルームに設置されたLCD-E657Q × 2台

事例のポイント

課題背景

- ・大阪と東京のオフィス間でスムーズにコミュニケーションを取り合い、社内を活性化したい。

成果

- ・社内に大型ディスプレイを導入し、大阪と東京のオフィスを常時会議接続。就業時間中はいつでも会話ができる環境にすることで、オフィス間のコミュニケーションを活性化。

マルチスクリーン対応ディスプレイ導入事例 アンダーデザイン株式会社様

導入の背景や課題

創業70周年を機に事業改革を進める中、働きやすいクリエイティブなオフィスに改装

2019年に70周年を迎えたアンダーデザイン株式会社。創業時から慣れ親しんだ旭の文字を含む、社名「旭コムテック株式会社」を変更し、ロゴも一新。従来の通信設備やSI業務だけでなく、ワークスペース全体をデザインする会社として事業改革を進めています。

「社名のアンダーには、ビジネスの水面下をデザインするという意味も込められています。オフィスの床下にある配線は、会社のインフラを支える重要な役割があります。そんな従来のインフラ構築業務に加えて、働く場所全体をコーディネートして、より働きやすい環境を提供す

るサービスを行っています」（川口氏）
企業に向けて提案や課題解決を行うなかで、自社のオフィスも改装。業務内容に応じて各フロアをデザインし、働きやすい環境作りに取り組んできました。

選択のポイント

臨場感のある大画面表示が可能な『55型×4面マルチスクリーン』を選択

オフィス改装のキーポイントに挙げるのが、フリースペースの壁に設置した4面マルチスクリーンです。
この場所では自由に打ち合わせをしたり、作業を行うことができ、ディスプレイには東京オフィスの様子が常時中継されています。
逆に東京には大阪オフィスの様子が映っているので、リアルタイムでのやりとりが可能です。「設置するにあたって、ディスプレイの大きさと設置の高さには非常にこだわりました。ディスプレイがもっともよく見える場所、またカメ

ラからよく映る場所を考えて、背景が広く抜けた場所を選んでいました。社内を移動するスタッフも見えるので、常に動きが感じられます」（川口氏）
当初、100型ディスプレイも検討しましたが、搬入経路が確保できないため、55型×4面を選択。ベゼルが細いので、マルチ設置でも画面の境目部分はまったく気にならないとのこと。「解像度の高い4K表示なので、奥行きもあり、より自然に感じられます」（川口氏）
運用に手間が掛からないのも、重要なポイント

です。就業時間に合わせて、自動で起動して通信を開始し、自動で終了する設定になっています。「操作不要で使える仕組みは、ディスプレイの利用が定着するために必要」と川口氏は話します。「常時接続というと驚かれる方が多いですが、必要な時だけつなぐよりも、自然に利用が進みます。特別な操作を必要とせず、ディスプレイの前に立って話しかけるだけなので、とても便利です」（川口氏）



東京オフィス



大阪オフィス

導入後の成果

リアル感覚で会話ができ、遠隔でもコミュニケーションが活性化。今後は新たな使い方にも挑戦したい

ディスプレイの表示画面については、「想像以上にリアルに見えてとても満足」と川口氏は話します。

「全身を見ながら会話ができるので、実際に対面で話しているような感覚です。離れているのに同じフロアで働いているような感じがですね。東京のオフィスが、とても身近に感じられるようになり

ました。また出張が難しい状況でも、お互いの事務所を来訪されたお客様にお会いできるので、導入してよかったと思っています」（川口氏）
大阪オフィスは、業務で利用するだけでなく、人と人をつなげるハブのような場所にしたいと川口氏は言います。「ウェビナー配信の会場にしたり、遠隔地と大阪オフィスを双方向でつなげる企画も

進めています。また、路面に面した東京オフィスの一角では、WEBメディアを主体とする、リアルとオンラインを融合した新しい体験を提供するCase Study Studioを今春立ち上げる予定ですので、楽しみにしててください」（川口氏）



東京オフィスから見た大阪オフィスの様子



大阪オフィスから見た東京オフィスの様子



LCD-E657Qは会議で活用

お問い合わせは、下記へ

NEC プラットフォームソリューション事業部
〒211-8666 神奈川県川崎市中原区下沼部1753
URL : http://jpn.nec.com/d_signage/

2021年2月現在